文　化　財

1　文化財展示

井手町文化財展示室

（1）開　設　　平成20年11月

（2）場　所　　自然休養村管理センター内（山背古道脇）

（3）展示内容

＜1階展示室＞　　町内遺跡出土遺物展示、企画展示スペース

＜2階展示室＞　　古文書、民俗資料展示

（4）開館時間　　平日10時～17時（入場16時30分まで）

（5）入場無料

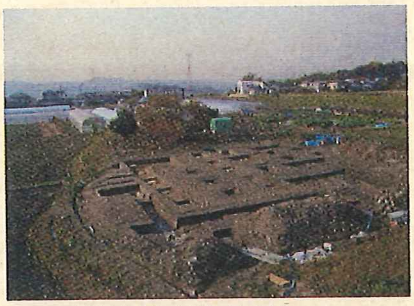
（1階展示室）

（2階展示室）

2　文化財発掘状況

（1）井手寺跡

井手寺跡は、京都府綴喜郡井手町大字井手小字東高月、西高月、栢ノ木に所在する。井手寺は奈良時代天平期の聖武天皇治下で活躍した橘諸兄が創建した橘氏の氏寺と考えられている。しかしながら、その存在は知られているものの、具体的位置や、規模、伽藍配置などは不明のままであった。平成１３年度、道路拡幅に伴い初めて本格的調査が実施され、１５年度から２期９年間の発掘調査で伽藍配置の一部が判明し、府道北側、寺域東端では礎石と雨落ち溝を良好に残す僧坊と推定される建物と、さらに他の建物へと続く軒廊跡が出土した。平成２５年度に発掘成果をまとめた報告書を刊行。



（僧坊推定建物跡）

（井手寺跡の石敷き＜石畳＞）

（僧坊推定建物の礎石と雨落ち溝）

（２）石橋瓦窯跡

石橋瓦窯跡は京都府綴喜郡井手町大字井手小字石橋、清水に所在する。井手寺跡の東約４００ｍの玉川右岸の斜面地に、平成 14 年度の調査で２基の窯跡と灰原が発見された。その出土瓦の型式から、平城京大安寺に瓦を供給した窯跡であり、『大安寺伽藍縁起并流記資材帳』に記された「棚倉瓦屋」と位置付けられた。文献資料と発掘調査両面からその存在が確認される稀な結果となった。平成１７年度、国の史跡指定（史跡大安寺旧境内附石橋瓦窯跡）がなされ、さらに、遺跡の範囲確認調査を実施し、平成２６年度に西側範囲が追加指定された。今後、保存活用にむけた事業を進めていく予定である。

（　石　橋　瓦　窯　跡　）

① 国指定史跡(追加指定、名称変更)

種　　別	名　　称	所　有　者 (石橋瓦窯跡)	年　　代	指定等年月日
追　加　指　定 名　称　変　更	大安寺旧境内附 石橋瓦窯跡	井　手　町	奈　　良	平成 18／1／26
追　加　指　定	大安寺旧境内附 石橋瓦窯跡	井　手　町	奈　　良	平成 26／3／18

② 京都府指定・登録文化財一覧

＜建　造　物＞

種　　別	名　　称	所　有　者	年　　代	指定等年月日
指　　定	高神社本殿	高　神　社	慶長９年	昭和 58／4／15
登　　録	玉津岡神社 (本殿・末社大神宮社)	玉津岡神社	貞享４年	昭和 59／4／14

＜美術工芸＞

種　　別	名　　称	所　有　者	年　　代	指定等年月日
指　　定	高神社文書(5 通)	高　神　社	鎌倉～江戸	昭和 59／4／14
登　　録	木造獅子頭	高　神　社	鎌　倉	昭和 59／4／14

＜史跡名勝天然記念物＞

種　　別	区　　分	名　　称	所　在　地	指定等年月日
指　　定	天然記念物	地蔵院の シダレザクラ	井手・東垣内	昭和 62／4／15

＜環境保全地区＞

名　　称	所　在　地	決定年月日
高神社文化財環境保全地区	多賀・天王山	昭和 58／4／15
玉津岡神社文化財環境保全地区	井手・東垣内	昭和 59／4／14

＜文化的景観＞

種　　別	名　　称	所　有　者	年　　代	選定年月日
選　　定	大正池とその水源 かん養林景観	井　手　町	―	平成 21／3／24

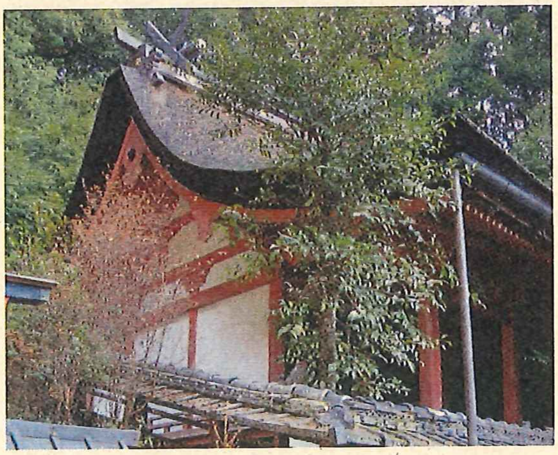
③ 井手町指定文化財一覧

種　　別	名　　称	所　有　者	年　　代	指定等年月日
有形文化財 工　芸　品	平山古墳出土品 陶　棺　　1棺 須恵器　３２点 鉄　鏃　１８点 その他　１６点	井手町教育委員会	古墳時代後期	平成 9／9／5
有形文化財 彫　　刻	木造 (伝) 聖観音菩薩立像	宗教法人遍照山 西福寺代表、住職 八　幡　覚　尭	平安時代	平成 10／11／18
有形文化財 美術工芸品、 歴史資料	おかげ踊り絵図	多賀郷土史会	江戸後期	平成 25／3／25
史跡・名勝 天然記念物	井手の玉川堤の 山吹	河川管理者 ・田辺土木事務所長 ・井手町長	奈良時代中期～	平成 12／2／15

井手町内文化財等

（史跡　大安寺旧境内附石橋瓦窯跡）

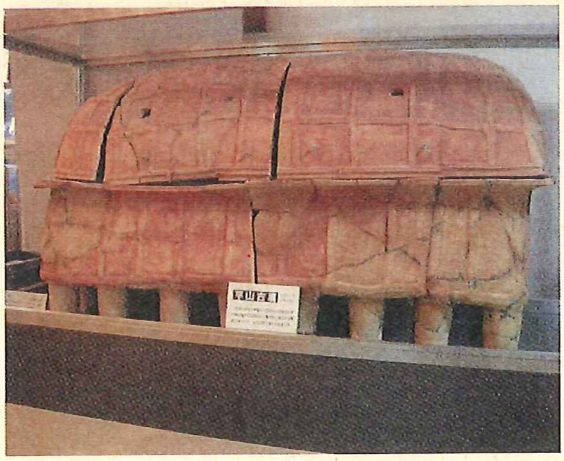
（京都府指定文化財　高神社本殿）



（京都府登録文化財　玉津岡神社本殿）

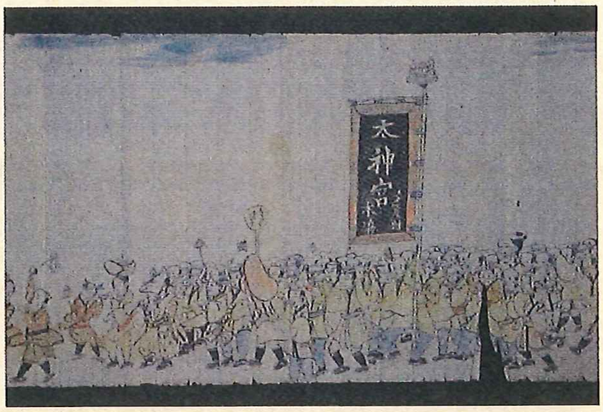
（京都府指定史跡名勝天然記念物
地蔵院のシダレザクラ）

（京都府選定文化的景観
大正池とその水源かん養林）



（井手町指定文化財　平山古墳出土陶棺）

（井手町指定史跡・名勝天然記念物
井手玉川堤の山吹）



（井手町指定文化財・おかげ踊り絵図）